

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	えすく笠松（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年2月10日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年2月10日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	デジタルツールを活用し、子ども一人ひとりに応じた支援を行えることが事業所の強みである。デジリハ・ロジカルkids LABO・スープリュームビジョンを通して、楽しみながら認知機能や思考力、注意力、身体機能の向上を図れる環境を整えている。	子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じて、課題内容や難易度を調整し、楽しみながら無理なく取り組めるよう工夫している。また、活動のねらいを明確にし、成功体験を積み重ねながら意欲や集中力、自信につながる支援を意識して行っている。	職員間で活用方法や支援内容の共有を進めながら、子ども一人ひとりにより適した課題設定や関わりができるよう支援の充実を図っていく。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、運動、制作、食育、デジタルツールの活用など多様な体験を通して、利用者一人ひとりの興味や成長を促している。	利用者一人ひとりの興味や発達段階に応じて活動内容を工夫し、無理なく参加できるよう配慮している。また、活動が偏らないよう意識し、多様な体験を通して意欲や成長につながる支援を行っている。	職員間で活動内容や支援の工夫を共有しながら、利用者一人ひとりに応じたより幅広い体験を提供できるよう、継続的にプログラムの充実を図っていく。
3	学習室と活動室が明確に分かれている構造ではないが、カーテンで空間を仕切ることができ、活動内容に応じた環境設定が可能である。また、仕切った一方の空間は天井が高く、その特徴を生かした活動を行えることも事業所の強みである。	活動内容や利用者の状況に応じて空間を仕切り、落ち着いて取り組める環境や十分に体を動かせる環境を使い分けている。また、空間の特徴を生かし、安全面に配慮しながら活動内容を工夫している。	活動内容や利用者の状況に応じた空間設定をさらに工夫し、より安心して過ごせる環境づくりを進めていく。また、空間の特徴を生かした活動内容の充実を図りながら、安全に配慮した支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ワンフロア構造のため、利用者が気持ちを落ち着かせるための個室空間を十分に確保しにくい点が課題である。2階に事務所や相談室はあるものの、活用の際には職員配置への影響が生じるため、状況に応じた環境調整や対応方法の工夫が必要である。	建物の構造上、静かに過ごせる個別空間に限りがあることに加え、別室対応の際には見守りのための職員配置が必要となるためである。	空間の使い方や職員間の役割分担を工夫し、できる限り落ち着いて過ごせる環境を確保できるよう対応していく。また、利用者の状況に応じて早めに気持ちの変化を把握し、別室対応が必要になる前の声かけや環境調整を意識していく。
2	避難訓練の実施状況や内容について、関係者が共通理解を持てるよう情報共有を充実させるとともに、参加状況の把握や報告、振り返りを通して改善につなげる体制づくりが必要である。	避難訓練の実施前後の周知や報告が十分でないことや、実施日時によって参加状況に差が生じ、関係者全体で情報を共有しにくいことが要因である。	避難訓練実施前の周知と実施後の報告を丁寧に言い、関係者全体への情報共有を強化する。また、実施日時や曜日を工夫し、より多くの利用者や職員が参加しやすい体制づくりにつなげていく。
3	記録等を通して日々の様子は伝えているものの、保護者が事業所での活動や支援内容に直接触れる機会が少なく、交流や理解を深める場が十分に確保できていない。	記録等による日々の情報共有は行っているものの、保護者が実際の活動場面や支援の様子を直接見る機会が少なく、事業所での取組を具体的に共有する場が限られているためである。	活動見学や保護者参加型の機会を検討し、事業所での支援内容や子どもの様子を直接伝えられる場づくりを進めていく。また、保護者との交流や意見交換の機会も工夫しながら、相互理解や連携の充実につなげていく。